

沖縄気象台

採用区分

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木、農学、農業農村工学、林学

技術系区分の主な業務

01



01

気象庁の業務は、自然現象を常時監視するとともに、気象、地震、津波、火山活動に関する情報を発表している。それらの業務は幅広く、また異なる業務であってもそれぞれ少なからず関連があるため、採用区分にこだわらず様々な業務に携わることができる。

02



02

沖縄気象台では気象災害の防止や軽減を目的に、気象状況を24時間体制で監視し、観測データや数値予報をもとに日々の天気予報や防災気象情報を発表している。

03



03

多くの職員で情報を共有しながら、毎日の予報業務を行っている。数値予報による予測精度は年々進歩しているが、最後に決断を下すのは長年経験を積んだ予報官である。

04

気象業務に必要な観測データを取得するために、気圧・気温・湿度・降水量・風向・風速・日照時間・視程等を自動で観測している。

この観測に使用する機器は熱源や建物等の人工物による影響を避けるため、芝生を植えた「露場（ろじょう）」と呼ぶ場所や建物の屋上等に設置している。気象台では、観測システム及びこれら屋外に設置された観測機器のメンテナンスや管理業務も担っている。

04



沖縄気象台の露場



05 災害発生時において、今後の防災気象情報の改善に資するよう、職員を【気象庁 機動調査班 (JMA-MOT)】として派遣し、現象の実態解明のための現地調査を行っている。写真は突風調査の様子で、左は被害の状況を確認、右は地元住民からの聞き取りの様子。調査で得られた情報を収集・整理し、現象の特定と風速を推定する。調査結果は気象台ホームページなどで公表している。



06 沖縄県内各地には、観測データを収集するため様々な観測施設がある。写真は地震観測局である。多様な地震動(揺れの大小、周期の長短など)を観測するために、各種の地震計を設置している。

その他にも潮位観測施設などがあり、潮位をリアルタイムで観測し、潮位や津波の監視に利用している。

先輩職員に聞く仕事の魅力！

那覇航空測候所
現業班員

なかいま

けんり

仲井間 憲李

2020年 沖縄気象台 地震火山課 採用

2021年 南大東島地方気象台

2023年 那覇航空測候所 現業班員 現職



現在は那覇航空測候所という職場で、沖縄県内の空港に特化した気象情報を提供する業務を行っています。

採用前は気象に関する知識はほとんどなく、不安な気持ちで入庁しましたが、充実した研修制度があったり、今まで関わった職場では先輩や上司の方々が優しく丁寧にご指導いただいたおかげで、安心して業務を行う事ができています。

自然現象が相手なので台風時期は繁忙になりますが、計画的に有給休暇を利用してリフレッシュする時間も作っています。

■お問い合わせ先

沖縄気象台総務課人事係

〒900-8517 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎3号館 8階

TEL：098-917-7940

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/>

